



この春、学童保育に入所した一年生の保護者の皆さん、おめでとうございませう。

学童に通って数日たちましたが、「うちの子は学童で楽しくやっていたかな」と少なからず心配のことでしょう。三十数年前の私もそうでした。

私の場合は、「学校に適應できるか」という不安の方が大きかったように思います。勉強についていけるか、友だちと仲良くできるか、家のカギを落としたらどうしよう、給食食べれるか…心配は尽きませんでした。それに比べると、学童への不安はそれほどなかったように思います。それは、仲良しの子と一緒に入所したこともありすが、指導員さんが「学童保育は遊びと生活の場だから、必ずしもできないとダメということはないですよ、ゆつくりやっていきましょう」と言ってくれたことが大きいと思います。いろいろありましたが、我が子達は学童でそれぞれに好きな遊びをたっぷり楽しみ、今でも学童時代の同級生と親しくしています。

～ご挨拶～
「ゆつたりとこどもに合わせて」
村上 晶代

(日本学童保育士協会石川支部長・元指導員)



この時期、どの子も環境の変化に大人が思うより疲れています。栄養と睡眠、そして、大人がゆつたりと構えて笑顔でいることが子どもにとっては安心の源です。学校や習い事は、大人から課せられた課題をこなす場所だといえます。それは好きなことであってもかなりの緊張や負担を伴います。それに対して、学童保育は自分で決めて実行していくことが保障されるべき場所（そういう体験の積み重ねの結果、その力が育まれる時間）です。大人は子どもに対して多くを発信しすぎることなく、子どもの言動、表現に対して、共感したり、応援したり、アドバイスしたりと、ゆつたりと構えその子に合わせて応答をしたいものです。保護者の皆さん、指導員を子育ての相棒だと思つたときには相談してくださいね。そして、指導員は保護者の期待に応えられるよう学び続けてください。

さあ、笑顔で「おかえり！」



2026年度石川県学童保育連絡協議会
総会・記念講演会のご案内

日時:2026年6月28日(日)
9:30～12:00(受付:9時より)
場所:地場産業振興センター本館第1研修室

<記念講演会>

テーマ:子どもたちの「いま」を考える
講師:松田洋介氏(大東文化大学教授)

たくさんのご参加をお待ちしています!



第51回全国学童保育指導員学校

2026年6月7日(日)10:00～16:15
会場:兵庫県立のじぎく会館 西日本兵庫会場

◆全体会(会場&オンライン) 10:00～12:00
全体講義「多様な子どもが安心できる学童保育づくり～学童保育に求められる支援の視点～」
講師:千歳 敏氏(兵庫県立総合教育センター指導主事)

◆講座(会場または ZOOM)13:15～16:15
全16講座
※詳しくは、リーフレットをご覧ください
または石川県連ホームページ <https://iskenren.com>

新クラブの
紹介!

つばたっ子ハッピー

河北郡津幡町字津幡ハ 96-1

Tel 076-216-8822

児童数: 68人(1年~6年)

職員: 4人+募集中

2026年4月、「つばたっ子」(津幡小学校区学童保育)の第4の施設「つばたっ子ハッピー」が開設されました。2001年に民家を借り上げ、児童数20人でスタートした「つばたっ子」は、開所26年目の今年、4クラブ・234人在籍のクラブとなりました。近隣の商店街にある建物の1階を借りて開所した「ハッピー」。1年生15人も仲間入りし、にぎやかに“ハッピー生活”がスタートしました!



県連協顧問・荒木田氏が語る

「石川県の学童保育の歴史」

その19

2001年(平成13年)

全国連協として全国一斉の「学童保育テレホン相談」に取り組み、可能な県は参加するよう要請されました。県連協としても、初めての試みとして「学童保育テレホン相談」を実施し、事務所に役員が相談員として詰めました。

県が「石川県放課後児童クラブ団体連合会」を設立し、県連協からも代表1名が理事として参加することになりました。

県議会各派に対し、「国に学童保育施策拡充と予算の大幅な増額を求める意見書」を採択するように要請を行いました。これまで何度も要請してきましたが実現しませんでした。今回は3月に全会一致で国への意見書提出が決まりました。

県が、施設整備費の補助を開始しました。

県連協が20周年を迎えるため、「ゆずりんと昼間のきょうだい〜やさしさいっぱいコンサート」を開催しました。同じく「学童保育フォーラム」も開催しました。

金沢市で「川北さくらクラブ」、諸江小学校区でも2か所目が開設されました。津幡町「つばたっ子」が誕生。寺井町でも一か所開設されました。

全国連協が、国に対し「学童施策拡充と予算の大幅増額を求める要望署名」に取り組み、127万筆を提出しました。(内石川県内では42385筆を集約)

国として、4人以上入所が条件ではあるが障害児入所加算補助を開始しました。合わせて過疎地小規模クラブに対する補助も開始されました。(一部制約がある。全市町村ではない)

署名に賛同する著名人アピールを発表。男女共同参画会議が「仕事と子育ての両立支援策について」を提言しました。

放課後児童健全育成事業に障害児加算、小規模加算が創設されました。

学童保育運動の機関紙であり、全国連協が編集する雑誌「日本の学童ほいく」の編集、発行がともに全国連協に移行しました。(一声社より権利の譲渡を受ける。)

第36回全国学童保育研究集会在、静岡県で開催され、3700名余の参加でした。

第26回の全国指導員学校は、四国、九州、東北会場を加え西日本は京都、東日本は横浜、四国は高松、九州は福岡、東北は仙台と拡大され、参加数も3450名と大幅に増加しました。